

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームまゆ 池の平
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	新潟県妙高市関川2351
記入者名 (管理者)	関谷 潔
記入日	平成20年11月14日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく 安心と安らぎ 地域とのふれあい」 その人らしい生活の場の提供を心がけ、安心と安らぎの場を作ろうと努力している。		地域とのふれあいをこれから多くしたい。 朝の申し送りなどに、理念を唱えることも良いかも。 ミーティングなどで話し合い同じ思いであることを確認している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をもととして実践できるよう取り組んでいる。 業務の中で出来事を理念と照らし合わせて、ミーティング時に行われている。 理念は建物の中、数箇所に張られ目と心に入るようにしている。		理念を完全に理解し、実践できるよう努力していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットや広報誌を町内に配り、理解に取り組んでいる。 家族の面会、ボランティアへの協力依頼を行っている。		家族の面会、ボランティアへの協力依頼を行ってきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に出た際、近所の方との挨拶を大事にしている。 管理者の訪問、地区の清掃活動や集会などに積極的に参加し、地域住民とのコミュニケーションを図っている。		気軽に立ち寄ってもらえることが少ないため、近所の方や興味をもっている方に声をかけ、立ち寄ってもらいやすい環境を作ってきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域運動会、地域の草刈の協力、行事・地域活動での集まりに参加し、地域との交流が広がっている。 地域のイベントには積極的に出かけたり、も行っている。		事業所の行事にも地域の方が参加できるようにしていきたい。 地域の行事には積極的に参加していきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の一員として、地域活動に参加し、交流することに努めている。 出かけることを望まない高齢者への訪問サービスを受け入れる。		運営推進会議などを通して地域に働きかける。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	積極的に取り組む。		積極的に取り組む。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向 上に活かしている	定期的開催され、行政や家族の意見を取り入れ、サービ ス向上に活かしている。		定期的開催され、行政や家族の意見を取り入れ、サー ビス向上に活かしている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町村とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて連携を行っている。 管理者が市町村との連絡を密に行い、質の向上に取り組ん でいる。		市町村には綿密に連絡を取り合い連携を図っている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な人には活用できるよう支援する予定。		職員全員が制度を理解・及び確認のための勉強会を行っ ていく必要がある。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法に ついて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事 業所内で虐待が見過ごされることがないよう 注意を払い、防止に努めている	資料などで配布されており、虐待防止に努めている。		資料などで配布されており、虐待防止に努めている。
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家 族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。 職員は概要を把握している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員 ならびに外部者へ表せる機会を設け、それら を運営に反映させている	苦情の内容や対応について、必ず記録している。 日常生活の中で利用者の意見を聞きだす。 常に利用者からの意見を聞きながら対応している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、 金銭管理、職員の異動等について、家族等 に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問された際に、生活状況を説明したり、電話などで定期的 に行う。 行っている。		家族会を定期的に開き、報告している。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員 ならびに外部者へ表せる機会を設け、それら を運営に反映させている	苦情内容や対応については話し合いの機会を設け、必ず記 録している。		苦情内容や対応については話し合いの機会を設け、必ず 記録していく。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回定期職員会議、毎日の申し送り時に職員の質の向 上に向けての意見交換、提案、反省会などにより反映させて いる。		職員会議、毎日の申し送りで反映していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常に柔軟な対応で勤務調整などを行っている。人員欠員時は他施設との協力体制の構築を図る。緊急時などの対応は出来ている。		常に柔軟な対応で勤務調整などを行っている。人員欠員時は他施設との協力体制の構築を図る。緊急時などの対応は出来ている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	信頼関係を崩さないよう納得いくまで説明、利用者の心情を配慮している。		信頼関係を崩さないよう納得いくまで説明、利用者の心情を配慮している。
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に対する支援 法人内外の研修会内容に応じた職員の参加を実施。指導的職員により実践教育を行っている。		来年度は研修を計画的、定期的に行う予定。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある福祉施設の利用者、職員を招き、行事に参加してもらいコミュニケーションが図られている。		地域にある福祉施設の利用者、職員を招き、行事に参加してもらいコミュニケーションが図られている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	健康診断、勤務日程の配慮。仕事外でコミュニケーションを図っている。		健康診断、勤務日程の配慮。仕事外でコミュニケーションを図っている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各々の職員に対する気配りを行っている。		各々の職員に対する気配りを行っている。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	その時の本人の様子を見て、話を聞いたりしている。利用者からの相談などを受けたときはすぐに運営者へ報告しすぐに対応している。		一人一人からゆっくり話を聞く機会を多くしていきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者を中心として行っている。		職員一人一人が家族の話をゆっくり聴く機会は少ないが、家族が困っているときにどの職員に話しても安心できるようにしていきたい。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談されたことを管理者に報告している。職員から積極的に関わられるよう努力している。		職員一人一人が、何ができるか考え関わっていただけるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	話の好きな利用者と相席にしたり、職員が中に入るなどして馴染めるようにしている。 利用者を交えて、サービス内容を決定。施設の環境をゆっくり見学し、納得するまで相談しあう。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の話を聞き理解を深め、本人がどうしたいのかを考えるようにしている。また、利用者の意向を尊重し、利用者本位の介護サービスを行っている。 利用者の良いところを引き出しながら一日が楽しく過ごせるよう努力している。		一日に一度はじっくり関われる時間を確保していく。 更なる信頼関係を築けるよう関わっていききたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望を聞き、話しやすい環境を整えていると思う。利用者の日々について伝えながら家族との関係を良いものにしていききたい。 本人の喜怒哀楽に人となりを感じ、共感を得ようとする。		家族が面会にこられた時、可能な限り本人も交えて話す時間をとる。 家族の方の気持ちや思いを受け止め、支えていけるようにしていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人だけに目が行ってしま勝ちであるが、家族との関係がどうなのかという部分まで理解するよう努力している。 家族と利用者同士が良好な関係を保てるように、良く話を聴きながらそれぞれの相談に乗り助言。		家族が面会にこられたとき、これまでの本人の生き方、家庭での様子を詳しく伺う。 家族の方の気持ちや思いを受け止め、支えていけるようにしていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所がどのようになっているのか、馴染みの人が場所についての話を聞き出しながら、話をする事によって思い出してもらおうようにしている。		本人のこれまでの人間関係を把握し、利用者の中にも知人がいる場合など、話す機会を設ける。 本人がどのような場所で過ごしてきたのかを理解し支援していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事時、歓談時、レク時の座る場所の考慮、全利用者に声かけし、皆で楽しめるような環境を作る心がけている。 利用者が孤立せずに職員が状況を見ながら調整し、良い関係に向かうよう支援している。		本人のこれまでの人間関係を把握し、利用者の中にも知人がいる場合など、話す機会を設ける。 1日の中で一人一人と必ず関わり、利用者同士が関わっていけるようにしていきたい。問題行動の少ない利用者に対しては関わりが少なくなってしまう事がある。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者終了しても関われるよう付き合いを大切にしている。		利用者終了しても関われるよう付き合いを大切にしている。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事入浴、レク等、本人の意向に配慮している。 要求に対する対応。 日常生活や生活の中でどのような要望があるか把握しようとしている。 家族も含め、話し合いながら希望に沿うよう努めている。		毎日必ず全員の方と話すよう心がけており、その中からヒントを得る。 自ら訴える事が困難な利用者の希望を把握できるようにしていきたい。本人・家族・職員間で意向の把握に努めることがさらに必要。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各利用者の生活歴など把握できるよう取り組んでいる。 提供される情報や日々の生活の中で把握できるよう努めている。 ケース記録の綴じ込みを把握し努める。		利用者との会話等や個別ケース記録を参考に、本人及び家族との対話の中より把握する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の過ごし方を尊重し、その日その日にあった生活作業の手伝い、掃除などを行うよう努めている。 本人や家族・親戚等から生活暦を聴き、日々の様子と情報をあわせ、その人にあった暮らしを把握するようにしている。		個人の一日の過ごし方を把握し、それに応じて対応している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で話し合い、具体的なケアプランが作成されている。		本人に関わっている一人一人がもっと関わっていけるようにしていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常に利用者の状況を把握し、即対応できる体制に努めている。 期間や変化に応じて作成している。		できること、できないことを明確にし、今までの生活の中で行ってきた事が継続していけるプランを作成。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録や日々の生活の中で気づいたことを記録するように心がけている。 記録等をしっかり行うようにし、情報の共有をしている。 記録を確認し、変化等を確認しながら計画見直しが行われている。		ケアの実践、気づき、工夫の記録記入の徹底。毎日必ず個別に記録している。また、まめに記録に目を通す。 漏れや把握していないことが無いようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況の変化等に応じて支援している。 通い、訪問、泊まりのサービスを一人一人のライフスタイルに合わせて提供、支援。 緊急利用などの受け入れを必ず行っている。		併設事業所と連携し柔軟に利用することも可能。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方や各機関と協力している。		敬老会などの行事やレクにボランティアの協力をお願いしている。 ボランティアの方に行事や外出などに関わってもらえるようにしていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	状況に応じて行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向に応じて行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医と協力し支援している。 妙高病院が協力病院であるが、利用者によりかかりつけ医があり、柔軟に対応。		妙高病院が協力病院であるが、利用者によりかかりつけ医があり、柔軟に対応。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	看護職員は常に利用者の健康状態を把握、支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	身体状態等、何か異常があれば看護師に報告し指示を仰ぐ。 職場内の看護師と情報の共有、本人の変化等報告し協力しながら支援している。 入院利用者への病院見舞いや医療機関との連携を怠らない。		看護職員に相談しながら支援している。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人の状態や変化を把握し安心して過ごせるよう連携している。		県立妙高病院と連携。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	該当なし。		本人及び家族の意向を尊重し、ターミナルケアを希望された場合は可能な限り支援していく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている			話し合いを予定している。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	該当なし。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のその時の状況に応じた声かけや対応を心がけている。 記録等は利用者の目に触れないよう保存している。 個々に個室がありプライバシーの確保に努めている。		利用者の人格を尊重し、丁寧な言葉かけを心がけている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の話を理解し希望を表現するよう働きかけ、双方で納得がいくよう支援している。 日常の中で声かけや働きかけをし支援できるようにしている。 入浴準備など、自己決定できうる限りしていただき、職員と一緒に決定することもある。		本人の希望を優先し、あるいは選択してもらい、無理強いはない。本人の意向を尊重し、自己決定できるよう取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日ごとのように過ごしたいが、希望にそって支援している	利用者の意向を尊重し、一人一人のペースを優先し支援に努めている。 ゆったりとした日々の生活を送ってもらえるように努めている。		利用者中心を心がけ、一人一人のペースを尊重し出来る限り希望に沿うよう努めている。 職員同士がフォローし、利用者の生活に支障のないようにしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えの準備などは声かけし、一緒に着る服を選んでもらっている。 利用者を選んでいただき、介助の必要なところのみ行う。 衣類も毎日同じものでなく、声かけしながら本人と着るものを選んだりしている。		本人の意思に沿い、行っていく。 理容・美容など、本人の希望に沿った店にいけるようにしていきたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることは利用者とともに片付けなどを行っている。 準備や片づけなど、一緒に出来るときは一緒に行っている。 定期的に職員と一緒に食事作りを行い、楽しみを味わう。 食事が楽しいものになるよう工夫し、おいしく食べれるよう努力している。		買物に行く時、何が食べたいかリクエストを出してもらい、時には皆で出かける。 調理や配膳も、今後利用者と一緒に行っていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望に沿って、嗜好のものを出す努力をしている。 食事の要望は出来る範囲で希望に沿うように支援している。 利用者の好き嫌いなどを把握している。		全員の嗜好を把握し、出来る限り希望に沿うよう努めている。 毎月のメニューの決定など、利用者の希望をもっと取り入れたものにしていきたい。
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意を訴えたときなどは速やかにトイレ誘導をしている。また、定時に排泄の声かけ等など行っている。 排泄のパターン等チェック表で把握し、個人に合わせた支援を行っている。 日中、夜間ともに個々にあった排泄介助を行って不快感を与えないよう気持ちよく生活できている。		声かけ、トイレ誘導により、利用者自身の力で排泄できるよう支援している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人が入りたいときを優先し、体調やその日の状態を考え楽しめるように支援している。		毎日入りたい方、女性利用者で女性職員の介助を望む方などの希望を尊重している。 利用者の入りたい時間を優先しながらゆっくり入っていたくような支援をしている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の状況を見ながらゆっくりできるよう支援している。 夜間は入眠に適した照明に切り替えている。 利用者へ声かけしながら利用者の求める休息を支援している。		用者に声かけしながら利用者の求める休息を支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、歌、作品作り、塗り絵等一人一人の力を生かし、好きなことやできる事を一緒に楽しみながら過ごせるよう支援している。 おしぼり作り、食器拭き等、本人ができる事をお願いし役割を持ってもらえるようにしている。		清掃、食器拭きなどの役割、歌、TV、散歩等の楽しみ、気晴らしの支援をしている。 利用者の得意なことを引き出し、職員に教えてもらえるような機会をもっと作っていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の支払い等、利用者本人がお金を使うことが少ない。		買物や外出などで自分でお金を使える機会を増やしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、散歩、ドライブなど外に出れるよう本人の希望等傾聴しながら取り組んでいる。 観光スポットへのドライブで買物などを行い、気分転換。 外気浴をしたり戸外に出れる天気を見て散歩。		天気の良い日には、日光浴、散歩、時にドライブ、買物に出かけている。 本人が言い出しやすい場を作り、職員からの提案だけでなく個人の行きたい場所へいけるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の変化を見ていただくため、花、紅葉などイベントに出る機会を作り支援している。 外出レクや買い物など、積極的に計画し取り組んでいる。 利用者と家族に確認しながら出かけている。		月ごとの行事担当を決め、計画実施している。 家族と予定の調整、ともに楽しめるような場を提供していきたい。 季節感を感じられる場所へ出かけたリスーパーへの買物などの支援。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡を取り、本人の希望に沿い電話をしていただいている。 本人が希望したら出来るよう、できるよう支援している。		職員がダイヤルを回し、つながるのを確認した後、本人に受話器を渡す支援をしている。 今後も希望に添えるようにしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者があった際は、居室、ホールにてゆっくり過ごせるよう環境を整えている。 地域の方々、知人、家族が気軽に訪問できるよう職員は常に対応している。		家族等、気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めている。 家人の訪問は多いが、友人といった人たちが気軽にこられるような工夫をしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないようケアに取り組んでいる。		身体拘束をしないよう見守りや状態の把握を行っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開錠し、離設等にはについては見守りを中心に対応、またセンサーマットを利用し防止に努めている。 外出希望時は職員が付き添い気分転換を図る。		利用者に目の届くよう人材職員配置が望ましい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者を見守り所在を把握している。 居室やホールの安全に配慮している。 日中、共用スペースにいない利用者については適宜巡回し、様子観察を行う。 職員同士の申し送り時間に利用者の様子を知らせている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じた安全対策を行っている。 日常生活で必要なものはなるべくなくさないようにし、危険のないよう見守りを行っている。 医薬品については保管庫に管理し、職員のみ取り扱いをしている。 危険なもの等の使用時や使用後の保管について注意している。		全体に安全性を考え、安全性を確保している。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に目を配り、声かけ、見守り、一部介助を行っている。 利用者の状態にあった対応に努めるよう努力している。 事故発生への取り組みは利用者への配慮、及び基から視点にいれて取り組んでいる。		今後も事故のないよう、また同じことを繰り返さないよう努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当などできるよう備えている。 緊急時の対応訓練の実施。 救急時の対応における研修を行っている。		今後、講習会などにも参加し知識を高めたい。 定期的に救急技術の確認できる機会を作っていきたい。 緊急時のマニュアル作成。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方との避難訓練などを行っている。		地域の防災訓練にも参加している。 地域の人に協力してもらえたい関係を作っていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族と話し、できる限り抑圧感の無い生活を送れるようにしている。		家族との話し合いに職員一人一人がもっと関わっていききたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェック、食量、日常の行動、顔色などに注意を払い看護師、管理者にすべての報告連絡による対応している。 体調不良などは速やかに看護師に報告し相談している。 夜間、昼間職員が一人一人に携わる都度、体調変化などに勤める事。		申し送り時やミーティング、記録ノートを利用し共有に努めている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員指導により理解を深め、確認に努めている。 朝、昼、夕別にし、袋に名前を記入し、誤薬に注意。個々の薬の効用、要領の完全把握。 薬の管理から服薬されるまでのチェックを職員全員が行っている。		薬の目的や副作用について、整理把握したい。 薬の変更や分からない薬等はしっかりと確認していききたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食に牛乳などを出す、昼食前には全員で体操を行う、飲食物の確認などを行っている。 排泄のチェックを行い対応している。 関わりの中での表情、言動の変化、不穏な言動の有無の観察。下剤の服用も看護師の指示の下で行っている。		レクや機能訓練、生活リハビリを通して運動量を確保したい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食毎の口腔ケアの実施。最後に職員が汚れの有無の確認。 夜間ポリデントにつけ洗浄。		食後、利用者全員必ず口腔洗浄を行い、口腔内の確認を行っている。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック、水分量の把握を行い栄養状態に合わせて支援している。 個々に咀嚼、嚥下状態あった食事の提供。さらに希望に応じ本人の好きな食べ物を提供。 毎食後、入浴後に水分補給を行う。		食事が進まない利用者に対し家族等に話を聴き、好きなものや食べやすいものの把握に努める。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、その他消毒など対応の方法に沿って行っている。 毎食前、トイレ後には手洗いを施行して頂く。さらに消毒を行う。 感染症対策の資料を配布されており、確認できている。 要所要所に消毒液を設置。用途に応じ予防と対応に努める。		感染症を広めないよしっかりと対応していききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒などに注意を払い、管理に勤めている。 手洗いや食材の管理、台所の衛生管理を行っている。 買いためはせず、毎日食材の買出しをし、各個の適した保管場所に保管。 手洗いの徹底など、食中毒について職員全員の意識は高い。		手洗いの徹底など、食中毒について職員全員の意識は高い。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るく入りやすい環境を整え対応している。 玄関口までスロープを設置し、車椅子使用できる。 わずかな段差は職員の付き添いで対応。		玄関にベンチを置いて、常に日光浴が出来るなど、温かみのある雰囲気大切にしている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花、絵などにより、また音楽などによりリラックスできて過ごすよう工夫している。 フロアー、廊下などで利用者の作品や写真など飾っている。 その時期の状況に応じて環境に配慮している。 手作りカレンダーや色鮮やかな飾り物などで明るく感じられるよう工夫している。		共有スペースに季節の花や手作りのカレンダー、絵などを飾り、生活感を出している。 気温等に配慮し快適に過ごせるようにしていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じて職員が間に入り、思い思いに過ごせるようにしている。 和室、洋室、ソファなど設置し、利用者が他利用者とはゆっくり過ごせる場所を設けてある。		ソファや椅子をバランス良く配置し、落ち着くスペースを確保している。 共用空間にたたみ、こたつのような車座になるところも確保したい。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の持ち物を使うようにしている。 居室やトイレなど利用者の動線に適した配慮を行っている。 ディスプレイにも季節感を出し、心地よく過ごせるよう配慮している。 居室担当が利用者や家族と話し合いながら居心地の良い居室づくりを行っている。		ベッド、家具はホーム備え付けの物であるが、配置は自由にしてもらい、昔からの品(写真など)も持ち込んでもらっている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気等に注意し、快適に過ごせるようにしている。 掃除やおむつ交換時には窓を開け、換気に努め必要時には芳香剤を使用し、利用者に配慮を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線には障害物を置かず、転倒時のリスクの軽減対策として専用の床剤を使用している。 廊下に手すりがあり、必要に応じた声かけで利用者に過ごしてもらっている。		バリアフリーの設計であるが、一部段差も残している。 食堂やホールといった大勢の集まる場所で安全で過ごせるように机の場所を配慮していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食事の席や必要な物品は位置を変えないようにしている。 家庭で行う食器拭きなどの手伝い、掃除の手伝いをその日ごとに声をかけながら行っている。		各居室前に氏名を書いた表札を掲げている。
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベンチを置き玄関先で日光浴ができるよう工夫している。 花や植物を植え、職員とともに世話をしている。 天気の良い日は玄関先でお茶を飲みながら日光浴をし、利用者間でコミュニケーションを図っていただいている。 ベランダで洗濯を干したりしている。		玄関前にベンチを配置し、テラスとして利用している。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)